

重エドメインと国産AI垂直統合が牽引するミッションクリティカル自律制御の地殻変動

Gemini 3.8 Flash

三菱重工業(MHI)とPreferred Networks(PFN)による資本業務提携は、生成AIの消費的なブームを越え、防衛装備や社会重要インフラを直接駆動する「ソブリン・フィジカルAI(技術・データ主権を確立した物理知能)」を自給自足するための不可逆な構造転換である¹。両社は2026年6月2日に業務提携を合意したのち、わずか3カ月後の8月31日に資本業務提携契約を締結、MHIがPFNの第三者割当増資を引き受けて総額100億円を出資した¹。この資本結合は、ソフトウェアの外部調達や単発の技術検証(PoC)の次元を脱し、防衛および基幹インフラの制御中核に国産AIスタックを不可分に組み込む国家戦略的な布石を意味する²。

概念モデルとしての本提携の本質は、「MHIが握る重工業の物理的ドメイン知識・実機制御則」と「PFNが培ったシリコンから基盤モデルに至るフルスタックAIアーキテクチャ」の完全閉域型垂直統合にある⁸。軍事作戦、発電プラント、航空宇宙、重要物流網などのミッションクリティカル環境では、外資クラウドへのデータ依存や通信途絶、統計的なハルシネーション(もっともらしい嘘)による誤作動は許容されない²。外部ネットワークから隔絶されたエアギャップ環境下において、ミリ秒から秒単位の確定的なレイテンシで機器を自律制御し、かつ人間の指揮官やエンジニアの意思決定を支援する計算基盤の構築が、本提携を通じて具現化しつつある¹³。

このアライアンスは、防衛省が定めた「防衛省AI活用推進基本方針」および「装備品等の研究開発における責任あるAI適用ガイドライン」に即した自律防衛力の構築を加速させると同時に、米Palantir TechnologiesやAnduril Industriesといったグローバル防衛テックに対抗しうる日本独自の対抗軸を打ち立てる¹⁶。物理アセットと計算知能の融合がもたらす影響は、自衛隊の作戦指揮統制からエネルギー安全保障、サプライチェーン自動化に至るまで広範に波及する²。

資本業務提携の背景と100億円出資がもたらす構造的緊密性

本提携が極めて短期間で業務提携から100億円の資本提携へと進展した背景には、地政学的リスクの顕在化、国内インフラの急速な老朽化、そして防衛産業におけるソフトウェア定義化(Software-Defined Defense)の急務がある³。MHI取締役社長CEOの伊藤栄作氏とPFN代表取締役社長の岡野原大輔氏は、ハードウェアとソフトウェアの一体開発なしにはミッションクリティカル現場の実装は不可能であるとの共通見解に立ち、長期的な研究開発投資体制を固めた¹。

MHIによる100億円の出資は、国内スタートアップに対する投資規模としては過去のトヨタ自動車やSBIホールディングスによる出資に並ぶ規模であり、PFNの技術的独立性を担保しつつ基幹パートナーとして囲い込む効果を持つ⁵。数十年単位で運用される戦闘機、護衛艦、原子力・ガスタービンプラントにAIを組み込む際、単なる業務委託契約ではベンダーの撤退や買収による技術遮断リスクを排除できない²。MHIは資本参加によってPFNの開発ロードマップと自社の製品ライフサイクルを同期させ、サプライチェーン上の恒久的な戦略同盟を確立した²。

提携フェーズ	合意・発表日	決定事項および資金・契約形態	戦略的意図
--------	--------	----------------	-------

第1段階：業務提携	2026年6月2日 ¹	自律型AI技術の共同開発合意、年度内の資本提携検討 ¹	防衛装備・社会インフラ知能化の技術フイージビリティ検証開始 ¹
第2段階：資本提携契約	2026年8月31日 ⁵	第三者割当増資の引受契約締結、総額100億円投資 ³	中長期の研究開発投資の固定化、技術スタックの不可逆的統合 ²
第3段階：市場公表	2026年9月16日 ⁵	資本業務提携の対外発表、共同開発の本格着手 ⁵	防衛・重要インフラ向けソブリンAI実装体制の確立を宣言 ²

この資本結合により、PFNIは独自AI半導体の量産開発や超大規模モデルの事前学習に不可欠な潤沢な計算投資資金を獲得し、MHIは競合重エメーカーに対する決定的な知能化技術の参入障壁を構築した²。

防衛装備と社会インフラにおける知能化・自律化の適用領域

両社が共同開発の主戦場とするミッションクリティカル領域は、国家安全保障、エネルギーインフラ、スマート物流・自律機械群の3つの柱で構成される¹。いずれの領域も、数秒の判断遅延やシステム停止が天文学的な損失や人的被害を招く過酷な運用環境である²。

国家安全保障および防衛装備品の作戦支援と自律制御

現代の複合戦においては、極超音速滑空兵器、飽和攻撃ドローン、電子戦妨害が交錯し、指揮官の認知的処理速度を超えるマルチドメイン作戦が展開される¹³。両社の協業は、護衛艦の防空指揮システム、次期戦闘機（GCAP関連無人随伴機等を含む）、ミサイル防衛網の状況認識アルゴリズムの刷新を狙う⁶。

PFNIは2026年7月29日、防衛装備庁新世代装備研究所より「生成AI等を用いた作戦環境情報分析支援実現に関する実証」を受託した¹³。このプロジェクトでは、最新の国産基盤モデル「PLaMo 3.0 Prime」を中核に据え、膨大な偵察文書、衛星・レーダーなどの地理空間情報、部隊運用テレメトリを統合処理し、作戦計画立案における選択肢をリアルタイム生成するシステムの成立性を検証している¹³。MHIの防衛装備ハードウェア製造技術とPFNの情報分析エンジンが連動することで、センサーから得られた脅威情報を即座に迎撃優先順位へ落とし込み、人間の判断を仰ぐC4I（指揮・統制・通信・コンピュータ・情報）の自動化が進められる⁶。

エネルギーインフラと産業機械群の自律運用

民需領域において、MHIは世界トップクラスの熱効率を誇るガスタービン複合発電（GTCC）や原子力発電プラントに、インテリジェントソリューション「TOMONI」を展開している¹⁹。PFNの物理深層学習（Physics-Informed Neural Networks等）をプラントの熱流体シミュレーションと統合することで、機器振動データの異常予兆検知から燃焼効率のミリ秒単位での自律補正、さらにはプラント全体の完全自律運転へと進化させる¹。

物流および産業機械分野では、MHIの知能化ソリューションコンセプト「ΣSynX（シグマシンクス）」と

の結合が進む²⁶。ΣSynXは「予測計画」「遠隔制御」「人機協調」「システム最適化」を4本柱とし、自動運転フォークリフト(AGF)や無人搬送車(AGV)の群制御を可能にする²⁷。ここにPFNの空間知能やエージェント制御技術を導入することで、倉庫や港湾ターミナルにおいて、事前の大掛かりな磁気テープ敷設や床面改修を行わずとも、環境変化を動的に学習して協調動作する高度な自律物流システムが実現する³⁰。

ハードウェアからAIモデルまでを結ぶ完全閉域型アーキテクチャ

防衛施設や発電所などの現場において、パブリッククラウドとの常時通信を前提としたシステム構成は致命的な脆弱性となる²。通信インフラの破壊やサイバー攻撃による通信遮断、さらには軍事機密やプラントノウハウの国外流出を防ぐため、システムは完全に閉じられたオンプレミス環境で自律完結しなければならない¹²。本提携の技術的核は、MHIが有する現場エッジインフラとPFNのフルスタックAIコンポーネントが、物理レイヤーからアルゴリズムレイヤーまで隙間なく連動する点にある⁹。

PFNは、アルゴリズム設計にとどまらず、シリコン半導体から基盤モデルまで自社で完結させる国内唯一の垂直統合型AI企業である⁸。同社が神戸大学と開発した「MN-Core」シリーズは、深層学習特有の行列演算に回路を特化させ、極めて高い電力性能比を誇る³³。さらに3次元積層DRAMの採用によって広帯域メモリを確保し、大規模言語モデルの推論を低電力かつ高速に実行可能とする「MN-Core L1000/L1100」を開発している¹⁹。ソフトウェア層では、2026年6月に正式リリースされた「PLaMo 3.0 Prime」が、256kトークンの長文脈処理、論理推論を行うReasoning系統、低遅延で即応するNon-reasoning系統、およびAPI出力のブレをなくす構造化出力(Structured Output)をサポートし、機密閉域環境への完全オンプレミス導入に対応している³⁷。

MHI側は、この計算知能を極限環境で安全に動作させる物理基盤として、2026年2月に発表した産業向けエッジデータセンターブランド「DIAVAULT(ディアヴォルト)」を投入する¹²。DIAVAULTは20フィートコンテナ規格の筐体にサーバーを収容し、独自の「二相式ダイレクトチップ冷却」とデジタル空調統合制御によって、高負荷推論アクセラレーターの連続稼働を可能にする¹²。無停電電源装置(UPS)や強固な入退室生体認証、遠隔無人運用機能を備え、工場、港湾、自衛隊駐屯地といった現場に即時展開できる¹⁴。

システム階層	主幹企業	構成コンポーネント	動作メカニズムとミッションクリティカル要件の達成
1. 物理アセット・制御部	三菱重工業	艦艇・航空機アクチュエータ、ガスタービン、物流AGF/AGV ¹⁹	物理的制約(慣性、熱力学限界、ハードウェア保護)を遵守した確定的な機械駆動 ²⁰
2. オンプレミス計算環境	三菱重工業	エッジデータセンター「DIAVAULT」 ¹²	二相式ダイレクトチップ冷却、閉域エア

			ギャップ、常時給電UPSによる完全遮断稼働 ¹⁴
3. AIアクセラレーター	Preferred Networks	独自設計プロセッサ「MN-Core」シリーズ（L1000等） ⁸	高電力効率演算と3次元積層DRAMにより、電力・空間制約下での大規模推論を達成 ¹⁹
4. 基盤モデルエンジン	Preferred Networks	国産フルスクラッチLLM「PLaMo 3.0 Prime」 ³⁸	256k長文脈、Reasoning/Non-reasoning切替、構造化出力による高精度状況判断 ³⁷
5. 自律化オーケストレーター	両社共同開発	知能化基盤「ΣSynX」＋防衛C2作戦支援アルゴリズム ¹³	センサー情報からPLaMoで戦況・プラント状況を解析し、ΣSynXを介して機械へ指令伝達 ¹³

センサーから入力された大量のテレメトリデータは、DIAVAULT内部の閉域ネットワークを経由してMN-Coreへと送られ、PLaMo 3.0 Primeが作戦状況や異常兆候を推論する¹³。推論結果は構造化JSONデータとしてΣSynXエンジンへ引き渡され、物理機械の安全限界を超えないよう検証された上で、各アクチュエータへの最適制御信号として出力される³⁰。このエンドツーエンドの閉域パイプラインにより、一切の外部通信を行わずに高度な自律制御ループが完結する¹⁴。

ソブリンAIの確立と経済安全保障・防衛省ガイドラインへの適合性

国家の基幹インフラや防衛装備に海外製AIモデルや国外クラウドを採用することは、有事における重大な安全保障上のリスクを孕む²。利用規約の変更、他国法に基づくデータ提出命令、米国の武器輸出管理法（ITAR）や輸出管理規則（EAR）の適用による運用制限、あるいはサイバー攻撃による通信線遮断が発生した場合、重要システムの運用が麻痺する恐れがある²。この課題に対し、自国の主権下で制御可能な半導体、モデル、運用基盤を確立する「ソブリンAI（Sovereign AI）」の要求が急速に高まっている²。

防衛省は2024年7月2日に「防衛省AI活用推進基本方針」を公表し、AIを将来の戦力基盤のゲームチェンジャーと位置づけた¹⁶。これに続き、防衛装備庁は2025年6月6日に「装備品等の研究開発における責任あるAI適用ガイドライン（第1版）」を策定した⁴³。このガイドラインは、防衛装備に搭載されるAIについて、意図しない逸脱動作を防ぐ「信頼性・安全性」、判断根拠を追跡できる「説明可能性・透明性」、および敵対的入力（アドバーサリアル攻撃）に耐える「サイバーセキュリティ」を厳格に求めている¹⁸。また、国際的な自律型致死兵器システム（LAWS）の議論に整合する形で、致命的な判

断プロセスには必ず人間が関与・監督する「ヒューマン・イン・ザ・ループ(HITL)」の原則維持が明記されている¹¹。

防衛省・経済安全保障の要求規範	具体的な運用要件	MHI × PFN 連合の技術的適合性
防衛省AI活用推進基本方針（2024年7月） [cite: 16, 17]	情報分析、指揮統制、無人アセット運用の抜本的迅速化 ¹³	PLaMo 3.0 PrimeIによる作戦環境統合分析と高速推論の提供 ¹³
責任あるAI適用ガイドライン（2025年6月） [cite: 43, 44]	誤作動防止、監査可能性、敵対的攻撃への耐性 ¹⁸	フルスクラッチ開発によるバックドア排除と構造化出力での根拠提示 ³⁸
ヒューマン・イン・ザ・ループ（HITL）原則 [cite: 11, 47]	武力行使や重大意思決定における人間の最終統制権確保 ¹¹	AIは選択肢提示と影響予測に徹し、人間が承認するUI/UXの設計 ¹³
データ主権・サプライチェーン自立 [cite: 2, 11]	外部依存の排除、国外法による運用差し止めリスクの遮断 ²	国産半導体（MN-Core）と純国産LLM、国内オンプレミス運用 ²

MHIとPFNの組み合わせは、これらの要求規範に対する完全な回答となる²。PLaMo 3.0 Primeは事前学習から指示学習まで自前で実施しているため、サードパーティ製モデルのようなライセンス変更リスクや未開示の学習バイアスが存在しない⁴⁰。さらに、Reasoningモデルによる段階的推論ステップの出力と構造化データの組み合わせにより、AIがどのような戦況評価に基づいて選択肢を提示したのかを指揮官が検証できるため、HITLの運用規律をシステム的に担保することが可能となる¹³。

グローバル防衛テック・競合との構造比較と差別化要因

防衛テック市場では、ウクライナ紛争等を機に急速に存在感を増した米Palantir Technologiesと米Anduril Industriesが先行している⁶。国内でもSakana AIが防衛装備庁からAI実証研究を受託するなど新興勢力の動きが活発化している⁶。MHIとPFNの連合は、これらの国内外プレイヤーと比較して際立った差別化要素を備えている²。

評価軸	米Palantir Technologies	米Anduril Industries	Sakana AI（国内）	三菱重工 × Preferred Networks
戦略ドメイン	ソフトウェア統合プラットフォーム（AIP、	垂直統合型自律兵器・センサーハードウェア	進化的モデルマージ・自然着想型マルチモー	超重厚長大フィジカルアセット＋国産フルス

	Gotham、Foundry) ¹⁹	ア (Lattice OS) ¹⁹	ダル知能 ¹³	タック知能 ²
ハードウェア基盤	自社ハードなし (商用クラウド・既存端末に依存)	中小型無人機、無人潜航艇、監視タワーの自社製造	自社ハードなし (クラウド計算資源を利用)	護衛艦、戦闘機、ミサイル、大型タービン、エッジDC「DIAVAULT」 ¹²
プロセッサ戦略	外部依存 (NVIDIA等の商用GPUが前提)	外部依存 (商用市販SoC・GPUを搭載)	外部依存 (汎用GPUインフラに依存)	独自低消費電力AI半導体「MN-Core」シリーズを保有・適用 ⁸
基盤モデル	外部モデル連携 (OpenAI、Anthropic、オープンモデルの集約)	コンピュータビジョン中心＋外部LLM統合	小型言語モデル、マージモデルの研究開発	国産フルスクラッチ基盤モデル「PLaMo 3.0 Prime」(完全オープン) ³⁷
コア競争力	大規模データの統合・可視化と高度な意思決定UI ¹³	迅速なアジャイル試作と安価な大量量産能力	モデル軽量化と独自アルゴリズム開発力	物理世界の超高難度ドメイン障壁と完全国内完結サプライチェーン ²

Palantirはデータ統合ソフトウェアにおいて圧倒的な完成度を誇るが、ハードウェア製造を行わず、推論モデル自体も外部モデルに依存するオーケストレーターである⁶。Andurilは自律無人機の迅速な開発で軍事調達を革新したが、製品ポートフォリオは小型無人機や監視網が中心であり、商用市販半導体に依存している¹⁹。Sakana AIはマルチモーダルデータの効率的統合で防衛装備庁の研究を受託しているが、装備品そのものの物理制御や重工業インフラとの接続は対象としていない⁶。これに対し、MHI×PFN連合の最大の強みは「物理世界の参入障壁」にある²。イージス護衛艦の構造力学、極超音速誘導弾の空力制御、GTCCの燃焼力学といった領域は、数十年におよぶ研究と実機運用データがなければソフトウェア側からアプローチすることができない²。MHIが持つ強固な物理アセットの内部深くに、PFNが自社開発した半導体 (MN-Core) とモデル (PLaMo) を直接組み込むことで、海外ソフトウェア企業が到底侵入できない独自の防衛・産業エコシステムが構築される²。

産業エコシステムへの波及効果と実用化に向けた技術的・制度的課題

防衛装備の極限環境で開発・実証された高信頼・閉域型自律アーキテクチャは、民間インフラの強靱化へ向けて強力なスピルオーバー効果を発揮する²。日本国内では少子高齢化に伴うプラント保

全要員の枯渇とインフラ設備の老朽化が深刻化しており、PLaMo 3.0 Primeによる熟練技術者の判断伝承エージェントや、DIAVAULTを用いた閉域画像解析による設備異常検知は、産業維持のための不可欠なインフラとなる²⁰。しかし、この構想を商業および実戦配備の段階で定着させるためには、乗り越えるべき技術的・制度的課題が残されている²。

決定論的安全性と確率論的モデルの調和

深層学習や大規模言語モデルは確率論に基づいて出力を決定するため、低確率であっても異常な推論やハルシネーションを完全にゼロにすることはできない¹¹。一方で、プラントの緊急停止回路や火器管制システムは、一定の条件に対して100パーセント保証された動作を行う決定論的(Deterministic)な安全性を前提とする。この乖離を埋めるため、AIの推論結果をそのままアクチュエータに送るのではなく、古典的な制御理論やハードウェア・インターロック機構を組み合わせた「セーフティ・エンベロップ(安全防壁層)」を二重・三重に挟み込む制御アーキテクチャの確立が技術的に必須となる。

過酷な物理環境下におけるエッジ推論の実装

艦艇の機関室、航空機の電子機器ベイ、砂漠地帯のプラントなどでは、高温、激しい振動、高電磁ノイズ、塩害といった過酷な物理的負荷が常時発生する。DIAVAULT実証拠点(横浜)で導入された二相式ダイレクトチップ冷却などの高効率冷却技術を、どのように耐震化・防振化し、かつ自衛隊の機動車両や艦載コンテナに収まるサイズまで小型化できるかという構造力学・熱設計上の課題が存在する¹²。加えて、2027年以降に本格投入される「MN-Core L1000/L1100」の量産立ち上げと、車載・艦載規格(MIL規格等)への適合プロセスの進捗が実装スケジュールを左右する¹⁹。

防衛・重要インフラ認証基準の未確立と調達制度の硬直性

防衛装備庁が「責任あるAI適用ガイドライン」を定めたものの、AIソフトウェアの品質・安全性・脆弱性を客観的に評価する第三者認証基準は未だ発展途上である⁴³。また、AIモデルは運用中も新たなデータに基づいて継続的にチューニング・更新(DevSecOps)されるべき性質を持つが、従来の官公庁・防衛調達制度は「一度納入した固定仕様のハードウェア」を長期調達する枠組みを基本としている。ソフトウェアの継続的な改良と安全認証を両立させる柔軟な契約スキームの創設が急務となる。

資本投下の拡張性と国産アライアンスの規模拡大

MHIの100億円出資は国内では突出した金額であるが、OpenAIやAnthropic、あるいは米防衛テック企業が調達・投下する兆円規模の資本力と比較すれば依然として限定的である²。PFNとMHIが閉じた二社間アライアンスにとどまることなく、さくらインターネット等の国内通信・クラウド事業者や先端半導体製造を目指すRapidus、さらには他の重工業・電機メーカーと連携した「オープン・ソブリンAIコンソーシアム」へと発展させ、国内産業全体の開発投資を結集できるかが長期的な国際競争力の分水嶺となる²。

三菱重工とPreferred Networksの提携は、生成AIを単なる知的作業の効率化ツールから、国家の基盤インフラと安全保障を物理的に支える防衛的基盤技術へと引き上げる契機となった²。外資メガテックに重要インフラの知能系を委ねるリスクを排し、自国の物理機械に自国の頭脳を直接組み込むこのアライアンスは、技術的自立と経済安全保障を実体化させるための国家的な実験場であり、日本の重厚長大産業がデジタル時代において主権を維持するための不可欠な道筋を示している²。

引用文献

1. 三菱重工とPreferred Networks、ミッションクリティカル領域、
<https://www.mhi.com/jp/news/260602.html>
2. 三菱重工がPFNへ100億円出資。防衛向け国産AIはモデル調達の問題、
<https://blogs.itmedia.co.jp/serial/2026/09/pfn100ai.html>
3. 三菱重工、PFNに100億円出資 - 防衛・社会インフラでAI活用を加速、
<https://news.mynavi.jp/techplus/article/20260917-4982397/>
4. ミッションクリティカル領域における国産AI技術の共同開発で業務提携、
<https://ascii.jp/elem/000/004/407/4407438/>
5. [7011.T] 三菱重工とPFN、資本業務提携契約を ... - BigGo ファイナンス、
https://finance.biggo.jp/news/ir_7011.T_20260916_c702ece4cf17
6. 三菱重工とPFN、防衛・インフラ向け国産AIで提携、26年度の資本、
<https://finance.biggo.jp/news/ZdoMi54BrX5PFN7B3OuN>
7. 三菱重工、PFNに100億円出資 防衛AIの国産化へ提携強化、
<https://finance.biggo.jp/news/d97479e5-ee27-41a9-9411-f5a7338a7b22>
8. ミッションクリティカル領域における国産AI技術の共同開発で業務提携、
<https://www.preferred.jp/news/pr20260602>
9. 三菱重工とPFN、資本業務提携契約を締結ミッションクリティカル、
<https://www.mhi.com/jp/news/26091602.html>
10. 三菱重工、PFNへ100億円出資 | AI技術の共同開発を強化、
<https://aiagent-navi.com/news/mhi-pfn-capital-alliance/>
11. 三菱重工×Preferred Networks、国産AI共同開発で業務提携、
<https://innovatopia.jp/ai/ai-news/107091/>
12. 三菱重工業「DIAVAULT」発表—クラウドを超える、現場密着型AI、
<https://innovatopia.jp/cloud/cloud-news/81564/>
13. PFN、防衛装備庁の生成AI実証を受託「PLaMo 3.0 Prime ... - Ledge.ai,
https://ledge.ai/articles/pfn_defense_ai_planning_support
14. 三菱重工業、横浜にAI向けエッジデータセンター「DIAVAULT」立ち、
<https://news.mynavi.jp/techplus/article/20260224-4161820/>
15. AIを活用し情報を早く安全に処理、エッジデータセンター、
<https://www.mhi.com/jp/news/26022403.html>
16. 日本のPFNが国産AIで自衛隊の作戦立案支援、防衛省 ... - ビジネス+IT,
<https://www.sbbi.jp/article/cont1/186317>
17. 防衛省の『AI活用推進基本方針』について | びじほー - note,
https://note.com/nb_biztech/n/nd76a4a4d1076
18. SHIFT、防衛装備庁のAI装備品等の技術的審査を支援 | 契約金額3億、
<https://innovatopia.jp/ai/ai-news/115461/>
19. 三菱重工×PFNが防衛AI共同開発 | 2026年度内に資本提携 - AIフレンズ,
<https://aifriends.jp/mitsubishi-heavy-pfn-mission-critical-ai-defense-2026/>
20. ミッションクリティカル領域の機械・システム知能化へ100億円出資、
<https://note.com/sankituushin/n/n63bb1894e0be>
21. 三菱重工とPreferred Networks、社会インフラ領域の国産AI共同開発、
<https://it.impress.co.jp/articles/-/29411>
22. インフラ・防衛向けAIでPFNと資本業務提携 100億円出資し共同開発、
<https://www.itmedia.co.jp/aipplus/article/2609/17/2000001563/>
23. 三菱重工とPFNが業務提携。ミッションクリティカル領域の国産AI、

- https://aismiley.co.jp/ai_news/mhi-pfn-ai-alliance/
24. PFN「国産AI」で自衛隊を支援へ 防衛の作戦立案に利用 防衛装備庁,
<https://www.itmedia.co.jp/aiplus/article/2607/29/2000000272/2>
 25. 三菱重工のAIとは？注力領域・AI関連職種・転職のポイントを解説,
<https://www.movin.co.jp/it/ai/firmlist/solution/mhi.html>
 26. Ep.1268 三菱重工とPFNが描く「AI自律型企业」への... - 名古屋で,
<https://podcasts.apple.com/ch/podcast/ep-1268-%E4%B8%89%E8%8F%B1%E9%87%8D%E5%B7%A5%E3%81%A8pfn%E3%81%8C%E6%8F%8F%E3%81%8F-ai%E8%87%AA%E5%BE%8B%E5%9E%8B%E4%BC%81%E6%A5%AD-%E3%81%B8%E3%81%AE%E9%81%93-%E3%83%9F%E3%83%83%E3%82%B7%E3%83%A7%E3%83%B3%E3%82%AF%E3%83%AA%E3%83%86%E3%82%A3%E3%82%AB%E3%83%AB%E3%81%AA%E5%9B%BD%E7%94%A3ai%E3%81%AE%E5%85%B1%E5%90%8C%E9%96%8B%E7%99%BA/id1805262366?i=1000771058001&l=it>
 27. 三菱重工、物流機器の自律化・知能化ソリューション『ΣSynX』を,
<https://news.aperza.jp/%E4%B8%89%E8%8F%B1%E9%87%8D%E5%B7%A5%E3%80%81%E7%89%A9%E6%B5%81%E6%A9%9F%E5%99%A8%E3%81%AE%E8%87%AA%E5%BE%8B%E5%8C%96%E3%83%BB%E7%9F%A5%E8%83%BD%E5%8C%96%E3%82%BD%E3%83%AA%E3%83%A5%E3%83%BC%E3%82%B7/>
 28. 三菱重工開発の自律化・知能化ソリューション「ΣSynX(シグマ),
<https://www.mhi.com/jp/news/21030901.html>
 29. さまざまな社会課題を解決する「ΣSynX」 | 三菱重工,
<https://www.mhi.com/jp/news/23100501.html>
 30. 物流知能化ソリューション - ΣSynX® | 三菱重工,
<https://www.mhi.com/jp/business/solutions/intelligent-logistics/intelligent-solution.html>
 31. 物流知能化ソリューション - ΣSynX® | 三菱重工,
<https://www.mhi.com/jp/business/solutions/intelligent-logistics>
 32. 三菱重工とソフトバンク、AI-RANのエッジデータセンター化に向け,
<https://www.mhi.com/jp/news/260302.html>
 33. 計算基盤 | 事業内容 | 株式会社Preferred Networks,
<https://www.preferred.jp/business/computing>
 34. 東海道新幹線ネットワークを活用したAIエッジデータセンターの共同,
<https://www.preferred.jp/news/797>
 35. MN-Core Series - Projects - Preferred Networks,
<https://projects.preferred.jp/mn-core/>
 36. ロボットの推論をAI半導体で高速化する共同研究を開始 - IT Leaders,
<https://it.impress.co.jp/articles/-/29406>
 37. PLaMo 3.0 Prime を試してみた - DevelopersIO - クラスメソッド,
<https://dev.classmethod.jp/articles/plamo-3-0-prime-first-touch/>
 38. PLaMo 3.0 Primeをリリースしました | 株式会社Preferred Networks,
<https://www.preferred.jp/blog/tech/plamo-3-0-prime-release>
 39. 国産生成AI基盤モデルPLaMo 3.0 Primeを正式リリース,
<https://www.preferred.jp/news/pr20260622>

40. PLaMo, <https://plamo.preferredai.jp/>
41. 独自開発のエッジデータセンターを「DIAVAULT」ブランドで展開,
<https://cloud.watch.impress.co.jp/docs/wdc/2099483.html>
42. 「装備品等の研究開発における責任あるAI適用ガイドライン(第1版),
https://www.ushijima-law.gr.jp/client-alert_seminar/client-alert/20250630ai/
43. 【プレスリリース】SHIFT、防衛装備庁のAI装備品等の技術的審査に,
<https://service.shiftinc.jp/news-index/16317/>
44. 装備品等の研究開発における責任あるAI適用ガイドラインについて,
<https://j-defense.ikaros.jp/docs/mod/003283.html>
45. AI装備品の技術審査支援をSHIFTに委託-「責任あるAI」ガバナンス,
<https://rocket-boys.co.jp/security-measures-lab/atla-shift-responsible-ai-governance/>
46. AI政策動向マンスリー情報 - Japan AISI,
https://aisi.go.jp/activity/activity_information/250711/
47. ウクライナで自律人型ロボット兵士、2027年までに試験投入か,
<http://www.efhy.911.lubbock.tx.us/tourism>
48. 防衛科学技術委員会レポート(AI),
https://www.mod.go.jp/j/policy/agenda/meeting/dstb/pdf/report_001.pdf
49. AI防衛革命: シリコンバレーの異端児「アンドゥリル」が日本の防衛,
https://blogs.itmedia.co.jp/serial/2025/12/_anduril.html
50. 三菱重工×ソフトバンク、横浜のエッジデータセンターでエッジAI,
<https://news.mynavi.jp/techplus/article/20260302-4178203/>
51. 三菱重工、Preferred Networksに総額100億円を出資へ AI開発を本格化,
<https://enterprisezine.jp/article/detail/25103>